JAPANESE
LIVE ATTENUATED

2009年H1N1 新型インフルエンザワクチン 弱毒化生 (鼻スプレーワクチン)

知っておくべきこと

多数のワクチン発表情報はスペイン語およびその他の言語で読むことができます。www.immunize.org/visをご覧ください。

1 2009年H1N1新型インフルエンザとは?

2009年H1N1新型インフルエンザ(豚インフルエンザとも呼ばれる)は新種のインフルエンザウイルスが原因となって引き起こされます。これは多くの国々に広がりました。

その他のインフルエンザウイルス同様、2009年H1N1新型インフルエンザは、咳、くしゃみによる人から人への感染と、ウイルスで汚染されたものとの接触による感染とで広がります。

2009年H1N1新型インフルエンザの起こり得る症状:
- 疲労
- 発熱
- 咽頭痛
- 筋肉痛
- 悪寒
- 咳
- くしゃみ

下痢や嘔吐を伴うこともあります。

大抵は1週間以内で快方に向かいます。しかし、肺炎やその他の重篤な疾患を発症することもあります。入院が必要となったり、死に至ることもあります。

2 2009年H1N1新型インフルエンザは通常の(季節性)インフルエンザとどう違いますか?

季節性インフルエンザウイルスは毎年異なりますが、それらのウイルスは互いに密接に関係しています。

過去にインフルエンザに感染した人は、季節性インフルエンザウイルスに対しある程度の免疫ができていることが普通です(体内にいくらかのウイルス防御能力を蓄えています)。

2009年H1N1新型インフルエンザウイルスは新種のものです。季節性インフルエンザウイルスとは非常に異なっています。

大部分の人には、2009年H1N1新型インフルエンザに対する免疫がほとんどまたは全くありません(体にウイルス防御機能が備わっていません)。

3 2009年H1N1新型インフルエンザワクチン

2009年H1N1新型インフルエンザを予防するワクチンがあります。

- これらのワクチンは季節性インフルエンザワクチンと同じように製造されています。
- 季節性インフルエンザワクチンと同じ安全性と有効性が期待されます。
- その他のウイルスが原因となる「インフルエンザ類似」疾患を予防することはできません。
- 季節性インフルエンザを予防することはできません。**季節性インフルエンザを予防するには、季節性インフルエンザワクチンの接種も受ける必要があります。**

経鼻弱毒化生ワクチン(またはLAIV)は鼻孔に噴霧します。**この用紙には経鼻弱毒化生ワクチンについての説明が記載されています。**

不活性化ワクチンも利用可能ですが、これは注射による接種になります。これについては別紙をご覧ください。

2009年H1N1新型インフルエンザLAIVにはチメロサールやその他の保存剤は含まれていません。これは2~49歳の人を対象に許可されています。

ワクチンウイルスは弱毒化(弱体化)されているため、病気の原因にはなりません。

4 2009年H1N1新型インフルエンザワクチンの接種対象者と、接種時期とは?

接種対象者

LAIVは、妊婦や特定の病状を持つ人を除き、2~49歳の人を対象に認可されています(下記5を参照)。2009年H1N1新型インフルエンザLAIVの優先的接種が推奨されている対象者:

- 2~24歳の健常者
- 25~49歳の健常者
  - 6ヶ月未満の乳児と同居または世話する健常者
  - 健常な医療従事者または救急医療スタッフ。

ワクチンが広く利用可能になれば、上記以外の25~49歳の健常者も接種を受けるべきです。

> 注記：妊婦、長期的な健康上の問題がある人、月齢6ヶ月から2歳の乳幼児など、特定の対象者はLAIVの接種を受けるべきでありませんが、予防接種を受けることは重要です。これらの該当者は不活性のインフルエンザ予防接種を受けるべきです。

連邦政府は、自主的な接種のためにこのワクチンを提供しています。しかし、州法または雇用主が特定の人を対象に予防接種を義務付ける場合があります。

接種時期

ワクチンが利用可能になった時点で、できる限り早期に接種してください。

9歳までの子供は、約1ヶ月の間隔を開けて、**2回の接種を受ける**べきです。これより年長の子供および成人は1回だけ接種が必要です。

5 ワクチン接種を受けるべきでない場合、または延期した方が良い場合

卵またはワクチン内のその他の薬物に重篤(致命的)なアレルギーがある場合、2009年H1N1新型インフルエンザLAIVの予防接種を受けるべきではありません。重篤なアレルギーのある方は、接種投与者にその旨を伝えてください。

下記の事項の該当者は、2009年H1N1新型インフルエンザLAIVの接種を受けるべきでありません。
- 2歳未満の乳幼児および50歳以上の成人
- 妊婦
- 免疫力が低下している人
- 以下のような長期的な健康上の問題を持つ人
  - 心臓疾患　- 腎疾患または肝疾患
  - 肺疾患　- 糖尿病などの代謝性疾患
  - 喘息　- 貧血症および他の血液疾患
- 過去1年間に喘息または1回以上の喘鳴発作を発病した5歳未満の子供
- 呼吸障害または嚥下障害につながり得る特定の筋障害または神経障害(脳性麻痺など)のある人
- 免疫力が極度に低下した(骨髄移植病棟など保護された環境内での看護を要する)人と密接に接触する人
- 長期アスピリン治療中の子供または青年期の若者

中程度または重度の病気にかかっている場合、回復するまでワクチンの接種を延期するよう忠告されるかもしれません。軽い風邪やその他の軽い病気にかかっている場合、通常、延期の必要はありません。

以下の既往症のある方も、その旨を伝えてください。
- 季節性インフルエンザワクチン接種後の致命的なアレルギー反応
- ギラン・バレー症候群(Guillain-Barré Syndrome, GBS) (重篤な麻痺性疾患でGBSとも呼ばれる)。

これらはワクチン接種を受けない理由にならないかもしれませんが、受けるかどうかの決定において医療スタッフから助言が得られます。

2009年H1N1新型インフルエンザLAIVは、その他の大半のワクチンと同じ時に接種可能です。過去1ヶ月以内にその他のワクチン接種を受けた場合や、来月中に接種を受ける予定がある場合、医師にその旨を伝えてください。H1N1新型インフルエンザLAIVと季節性LAIVとの接種は同時に受けるべきではありません。

6 2009年H1N1新型インフルエンザLAIVによるリスクとは?

あらゆる薬剤と同様に、ワクチンは激しいアレルギー反応など重篤な問題の原因となる恐れがあります。しかし、ワクチンが重篤な害または死亡の原因となる危険性は非常に低いものです。

2009年H1N1新型インフルエンザLAIVのリスクは季節性LAIVのものと類似していると予想されます。

軽い症状:
2~17歳の子供や思春期の若者の一部により、下記を含む軽い反応が報告されています。
- 鼻水、鼻詰まり、または咳
- 発熱
- 頭痛および筋肉痛
- 喘鳴
- 腹痛または時々の吐気や下痢

18~49歳の一部の成人により、下記の症状が報告されています。
- 鼻水または鼻詰まり
- 咽頭痛
- 咳、悪寒、倦怠感/脱力感
- 頭痛

重度の症状:
- ワクチンによる致命的なアレルギー反応は非常に稀です。起こるとすれば、接種後2、3分から2、3時間の間に生じることが普通です。
- 1976年、初期型の不活性化豚インフルエンザワクチンはギラン・バレー症候群(Guillain-Barré Syndrome, GBS)の症例と関連付けられました。LAIVはGBSと関連付けられていません。

7 重篤な反応があった場合はどうしますか?

気を付けることとは?
高熱または普通でない様子など、平常でない状態に気を付けてください。重篤なアレルギー反応の徴候には、呼吸困難、声がれ、喘鳴、じんま疹、顔面蒼白、脱力感、動悸、またはめまいが含まれることがあります。

どの様に対応すれば良いでしょうか?
- 医師に**連絡**するか、症状のある人を直ちに医師に連れて行ってください。
- 症状、発症した日時、予防接種日を医師に**知らせてください。**
- Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS: 予防接種有害事象報告システム)用紙を提出するよう医療提供者に**要請してください。**または、ご自身でVAERSウェブサイト **www.vaers.hhs.gov**、もしくは**1-800-822-7967**に電話して報告することもできます。

VAERSは医療上の助言はいたしません。

8 ワクチン障害補償

ご自身やお子様にワクチンによる反応があった場合、告訴の権限は法律で制限されています。

しかし、このワクチンによる重篤な反応を持つ特定の人に対し医療費やその他特定費用の支払いを支援する連邦制度が制定されました。この制度に関する詳細は、**1-888-275-4772**にお電話いただくか、または当制度のウェブサイト **www.hrsa.gov/countermeasurescomp/default.htm** をご覧ください。

9 もっと詳細を知りたいのですが?

- 医療提供者にお尋ねください。その際、予防接種の添付説明書を受け取ったり、その他の情報源を入手できます。
- 自治体または州の保健所にお電話ください。
- 以下のCenters for Disease Control and Prevention (CDC: 疾患管理予防センター)にご連絡ください。 1-888-767-4687
  - **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** にお電話いただくか、または
  - CDCのウェブサイト **www.cdc.gov/h1n1flu** もしくは **www.cdc.gov/flu** をご覧ください。
  - ウェブサイト **www.flu.gov** をご覧ください。

DCH-1470J

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES
CENTERS FOR DISEASE CONTROL AND PREVENTION

CDC

AUTH: P.H.S., Act 42, Sect. 2126.

Vaccine Information Statement
2009 H1N1 LAIV IMM-979J – Japanese (10/2/09)　42 U.S.C. §300aa-26
Translated by Transcend Translations, Davis, CA　www.transcend.net

正確な予防接種状況、予防接種についての評価、今後の予防接種の推奨スケジュールを医療提供者に提供するため、情報は Michigan Care Improvement Registry (ミシガン幼児予防接種記録所)に送られます。予防接種情報が同記録所に送られないよう医療提供者に要請できる権利が誰にでもあります。